

## 【金沢区】令和5年第2回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和5年6月12日 11時25分～12時25分
場 所	金沢区役所 5階1号会議室
出席者	<p>【議員：5名】谷田部 孝一 議員（座長）、 高橋 のりみ 議員、黒川 勝 議員、 竹野内 猛 議員、坂井 太 議員</p> <p>【金沢区：30名】永井 京子 区長、小林 悦夫 副区長、 船山 和志 福祉保健センター長、 中山 陽子 福祉保健センター担当部長、 加藤 暢一 金沢土木事務所長、 間正 勝司 金沢消防署長</p> <p style="text-align: right;">ほか関係職員</p>
議 題	令和5年度個性ある区づくり推進費区主要事業執行計画について
発言の 要 旨	<p><b>竹野内議員：</b>観光プロモーションについて、先日横浜金沢観光協会の総会に出席し、金沢ブランドの認定、シェアサイクル及び各種イベントなど、機動的な取組を行って頂いていることなどをご報告いただいた。また、当日は金沢区ご当地かるた「カナかる！」の作成チームと横濱金澤シティガイド協会の活動報告もあり、観光協会を中心に新旧様々な団体の有機的な連携が進んでいる様子を伺い、金沢区の観光・賑わいに、力強い潮流を感じた。区役所との緊密な連携、区づくり予算からの決して少なくない補助金がこうした活動を支えており、今後も引き続き、連携と支援を継続・強化していただきたいと思うが、区長の見解を伺いたい。</p> <p><b>永井区長：</b>金沢区の魅力を区内外にアピールしていくためには、区役所、関係団体、関係施設が一丸となって取り組んでいくことが重要であ</p>

ると認識している。そのためには、金沢ブランドに代表される区内製品のPRや区の観光を支える様々な施設、団体との細やかな対応ができる観光協会との連携が欠かせないと思っている。先日の観光協会総会での事業報告や講演会は、協会が正にそういった取組を日頃から行っていたと区としても改めて実感する機会となった。今後も、区役所は観光協会と密に連携し、更なる認知度向上と集客に向け一丸となって観光振興を進めていきたい。

**竹野内議員：**次に、歩道等でのスケボーによる騒音や歩行者の危険に関する苦情についてお伺いしたい。私のところにも区民の方から何件か具体的なご相談をいただいている。区役所、土木事務所として、スケボーのいわゆる迷惑行為を、何か所くらい把握しているのか、あるいはご相談を受けているのか伺いたい。

**大屋区政推進課長：**スケボーに関しては、広聴で区役所にもご意見が寄せられている。具体的には、能見橋、泥亀公園、長浜公園、富岡並木ふなだまり付近からの苦情・相談といったものが寄せられている。これらについては、「スケボー禁止」のように道路や公園における特定行為を一律に禁止することは、現時点ではなかなか難しいが、苦情が寄せられた際には、警察へ情報提供をするとともに、必要に応じ公園利用についてのマナー啓発を行っている。

**竹野内議員：**一律に歩道や公園での行為を禁止することが難しいというお話も理解できるが、実際に歩行者の方や遊んでいる方等が、危ない思いや怪我をするおそれもある。どこでも禁止ということではなく、特に具体的なお話をいただいているところに関しては、行政としても心配されている方に寄り添った対応を精一杯していることを感じていただけるような、最低限の対応も目に見える形で必要だと思う。警察と連携しているというお話もあったが、是非注意喚起について工夫しながら対応いただきたい。

次に、釜利谷郵便局及び坂本バス停そばの宮川にかかる「待橋」について、狭あいの解消とあわせて、河川の流れを変えて氾濫を抑えるための工事を実施するというところで、こちらは地元の皆さまの期待・関心も大きな工事で、何回かご質問をさせていただいている。

昨年の決算特別委員会でも道路局に確認と、併せて早期の工事着手を要望したところである。今年度は埋設管の移設など、具体的な工事に着手したい旨伺っているが、直近の状況、見通しについて伺いたい。

**黒羽根金沢土木事務所副所長**：「待橋」付近について、橋の拡幅はもちろん、接続道路の付け替えも必要であったため、用地取得がこの10年課題であった。すでに用地取得は完了しているので、先日道路局河川部とも協議を行い、道路改良がかなり具体化している。現在、関係機関及び地元と移設等の協議があるため、そちらを進めているところと聞いている。引き続き、できるだけ早期に工事着手できるよう取り組んでいきたい。

**竹野内議員**：早期にお願いしたい。

次に、6月2日から3日にかけて警報が発令された台風・大雨の対応に関連して伺いたい。まず初めに、区長はじめ多くの職員の皆様には、2日の金曜日から土曜日にかけて区役所等に泊まりこんで警戒・ご対応を頂いた事、心より感謝を申し上げます。

今回も1か所がけ崩れの報告があったということだが、当該地の補強や事後の対策について、がけ地所有者等からご相談があれば丁寧な寄り添った対応をお願いしたい。その上で、地震と違って、大雨・台風は予測されたものであり、危険ながけ地周辺の皆様への呼びかけ、あるいは河川や水路の詰まりの除去等、事前に対応できることはしっかり行って、被害を防ぐ、あるいは被害を最小限に抑えるという取組が大切だと思う。今回、具体的にどのような事前の対策・対応を実施したのか伺いたい。

**黒羽根金沢土木事務所副所長**：土木事務所としては、2日の午前中に、警報がでる前の段階で、区内全域の河川及び水路などのスクリーンや大雨時に道路冠水が想定される箇所雨水マスや側溝をパトロールしながら、点検及び詰まっているところの清掃を行った。

2日の午後以降は、警報発令とともに所内の配備体制を速やかに構築し、土砂災害における道路啓開や、道路冠水の解消、倒木の撤去などの災害に対して、迅速な対応をとらせていただいた。

**竹野内議員**：できる対応をできる範囲でしっかりやっていただいていることがわかって、安心した。

近年の風水害の激甚化に対して、先程質問した宮川の護岸整備等の必要なハードの整備は、速やかに進めていただきたいと思う一方、こうした大規模な対応には、予算等の様々な制約があり、各地域での自助・共助をサポートする取組が必要である。その一つが土のうステーションの設置であり、区内では富岡西地区に2基設置していただいている。現状、その他の場所への設置検討等があるのか伺いたい。

**黒羽根金沢土木事務所副所長**：土のうステーションの増設に向けた今後の取組だが、過去の浸水被害の状況や地域の要望等も聞きながら進めている。道路局河川企画課と連携して、設置増加に向けて取り組んでいくところである。

**竹野内議員**：釜利谷南地区では、5月8日の大雨で道路が冠水し、隣接する住宅内への床下浸水も発生したと伺っている。地形的に、宮川の水路、河川流域で雨水が集まる場所で、今後も同様の被害が頻発するのではないかと近隣の皆様が心配をされている。こうした地域に土のうステーションを設置し、活用していただくことが有効ではないかと考えるが、ご見解を伺いたい。具体的に、自治会からの要望があれば、どのようなプロセスを踏めば設置ができるか等教えていただきたい。

**黒羽根金沢土木事務所副所長**：土のうステーションの設置は、先程申し上げたように、過去の浸水被害の状況や地域の要望等を踏まえ、道路局と協議しながら進めていくところである。土のうステーションの設置には、土地の確保が非常に重要である。釜利谷南地区については、土木事務所としても把握しているが、設置できる土地がない地域となっている。そのため、現状は、河川の浸水対策として、スクリーン等を定期的にパトロールして清掃する、流れやすいように改良を施す等の対応をしているところである。引き続き土のうステーションについては、土地の確保等を目指して協議を進めていきたいと考えている。

**竹野内議員**：釜利谷南公園の前方等、広くなっているところもあるので、地域の皆様のご同意があれば候補になるのではと思う。

最後になるが、区局連携事業の持続可能な地域交通の実現に関連し伺いたい。まず、さまざまな試行錯誤を経て、昨年12月から今年の11月まで、3回目となる実証運行を実施している「とみおカート」について、直近の利用状況などを伺いたい。

**大屋区政推進課長**：利用実績としては、実証実験をはじめた昨年12月から5月のまでの1日当たりの利用人数は22.8人、総利用人数としては延べ1,889人の方にご利用いただいた。直近の月別の利用状況は、いずれも一日あたりの利用人数を申し上げますと、3月は25.6人、4月で25.8人、5月は30.8人と利用者が伸びている状況である。

運行している京急電鉄では、引き続き、利用促進に取り組んでいくと聞いている。区としても、本格運行に向けて関係局と連携し、しっかり取り組んでいきたい。

**竹野内議員**：1日あたりの利用人数が採算ベースと比べてどうかというところは、市会等で改めてご報告いただく機会もあるかと思うが、引き続きしっかりと後押しをしていただきたい。

また、東朝比奈・六浦地区での地域交通サポート事業について、コロナ禍で2度にわたる実証実験を行ったが、採算が取れず保留の状態となっている。昨年の決算特別委員会において、「実証運行で得られたデータをしっかりと検証し、採算性が確保されるよう、利用者数が少ない曜日の運休や、運行時間帯・運賃の見直し等の検討を進め、本格運行を目指す」といった、かなり具体的な当局の答弁を頂いていたが、本格運行に向けた現在の状況、見通しはどうか。

**大屋区政推進課長**：東朝比奈・六浦地区の状況については、昨年度の実証運行は令和4年4月から9月まで行われ、1日あたり240人という目標を掲げていたが、結果としては、平均乗車人数は約7割の1日あたり178人という結果となっている。本格運行については、現在、実証実験で得られたデータと、また実証運行後に実施した地域アンケートの結果をもとに、運行事業者である京浜急行バスの方で検討していると聞いている。

**竹野内議員**：いつごろの再開になるかといった具体的な話にはなってい

ないということか。

**大屋区政推進課長**：その通りである。

**竹野内議員**：次に、西柴地区で乗り合いタクシーを使った新たな地域交通の実証実験を検討していると昨年お話があったが、その後の話はどうなったのか伺いたい。

**大屋区政推進課長**：乗合タクシーを使った実証実験については、昨年度、旭区東本宿東部地区で乗合タクシーを使った実証実験を行ったところである。実施した期間が約1か月と非常に短かったこともあり、390世帯に対し利用者が9名にとどまり、実際に相乗りした状況は生じなかったと聞いている。

西柴地区においては、今後、相乗りの抵抗感を確認するための乗車体験会や外出目的・手段についてのアンケート調査を行うとともに、予約方法についても、旭区でとられていた電話予約からデジタルツールへの見直し等も行い、今年の秋ごろから実証実験に取り組む予定と聞いている。

**竹野内議員**：持続可能な地域交通の確保は、全市的な課題であり、平原副市長をトップとしたタスクフォースを結成し、様々な取組・検証を進めていただいているところである。特に、市内で急速に人口減少・高齢化が進む金沢区でこそ、その確立を急いでいきたいと思うが、この点に関する区長のご見解・意気込みを伺いたい。

**永井区長**：金沢区内には、造成された坂が多い住宅地も多く、さらに高齢化も進んでいるということで、自家用車以外の移動手段を求める声がたくさん寄せられている。

一方で、運行事業者を取り巻く環境は、これまでと大きく変わり、バス・ミニバスに限らず、新たな手法を用いた移動支援・地域交通の検討も求められていると感じている。

これまでの実証実験結果なども踏まえながら、誰もが利用しやすい地域交通の検討、実際に本当に皆さんお困りですので、何ができるのかというところを区役所も局と一緒に進めていきたいと思っている。

**黒川議員：**子ども・子育てについて、「ちはっさく講座」を開かれるということだが、対象者が子育て支援関係者となっている。怒鳴らない子育て方法の練習などは、子育て支援関係者にももちろん大事だと思うが、むしろお父さんお母さんにも大切なことではないかと思う。例えば、今回は子育て支援関係者に周知し、そういう人たちからお父さんお母さんたちに対して啓発していくという将来的な流れになっていくのか。あるいは、この事業そのものが子育て支援者向けで、お父さんお母さんを対象にしたものではないということなのか。具体的に教えていただきたい。

**渡部こども家庭支援課長：**「ちはっさく講座」は、まずは親と子のつどいの広場等、地域の子育て支援者に講座を受けていただき、それを地域に持ち帰って、子育て支援者が養育者向けに講座を実施するということを想定している。来年度に向けては、直接養育者向けに区の方から実施するということも考えていきたい。

**黒川議員：**是非実際のお父さんお母さんたちに対してやっていただけるようになってくると良いと思う。それと、おじいちゃんおばあちゃんも子育てに関わりたいが、お父さんお母さんの邪魔をしてもいけないと思い、なかなか踏み出せない方もいると聞いている。そういった方に対して金沢区として応援していけるような仕組みも大切だと思うが、具体的な取組はあるか。

**渡部こども家庭支援課長：**現在、祖父母向けの講座は区の方では実施していないが、例えば各拠点で第一子を対象として実施している地域育児教室でお手伝いをいただいている方は、地域の民生委員、主任児童委員の皆さんや保健活動推進員の方もいる。子育てにすごく興味のある方が金沢区は多いと感じているので、そういったところを通じて、祖父母世代の方にも支援を行っていきたくと考えている。

**黒川議員：**民生委員や子育て推進員は、おじいちゃんおばあちゃん世代に近い人たちだと思うので、そういう人たちから広がっていくと良いと思う。その世代の人たちは、お父さんお母さんに遠慮があったり、邪魔になっても嫌だと思っていたりすると思うが、いろいろ勉強して今のト

レンド等を学んで子育てに協力してもらえると、お父さんお母さんの負担が減ることにもつながり、お母さんが働きに出やすくなることにもつながると思うので、是非お願いしたい。

それと、金沢の魅力ふれあい事業について、海の魅力に関していろいろ書いてあるが、金沢漁港や柴漁港にも協力してもらったら良いと思う。漁港と区役所との協力関係や連携について教えていただきたい。

**大屋区政推進課長：**金沢区の子どもたちに地域の魅力に触れてもらって、大人になっても地元金沢に住みたい、住み続けたいと思えるような、愛着心をはぐくむことを目的として金沢区の魅力ふれあい事業というものを行っている。事業の中では、すでに乗船体験といったまさに海の魅力にふれあうようなことは行っているが、漁港も金沢区の重要な魅力のひとつであると思っているので、何か良いプログラムが組めるか検討を進めていきたい。

**黒川議員：**漁港の皆さんもいろいろなこと、例えば給食にあなご丼を出したり、お子さんたちを招いているいろいろなイベント等をやっていたりするので、お話をお伺いして、どんなことができるのか、現状やっている取組の中で、区として協力ができればとありがたいと思うので、是非連携をとっていただきたい。

次に、LINKAI横浜金沢推進事業について、そのあとの区民と大学の関係にも関わってくるが、この人たちの一番の目的は、学生や若い世代の人たちが福浦・幸浦の企業に就職してくれるということや、製品開発あるいはモニタリングといった仕事に直結するような協力関係がボランティアベースで、できないかということだと思う。そういう部分で、例えば就職につながるということを区として数値的に把握していると、企業の皆さんたちも、自分たちの実益につながると、協力の仕方も変わってくる、より積極的になってくれると思う。そういう部分で就職に実際に直結している取組だったり、数値的なことだったり、もしあれば教えていただきたい。

**大屋区政推進課長：**日頃、LINKAI横浜金沢の地区の団体さんと意見交換している中で、今のご時世なかなか厳しい中、若い世代に来てもらうことが非常に重要だと聞いている。そういった中で、資料の中にも記載し



ているが、LINKAI横浜金沢PR冊子「学生が取材に行く」を作成している。実際に学生さんが企業に足を運んでヒアリングし、それを学生さん向けに紹介するため、それぞれの大学の中で配布してもらうものになる。この過程の中で、取材に行った学生さんから「こんな魅力的な企業があるとは知らなかった。」という声もある一方、企業さんの方からも、「若い人に素直な質問を受け、非常に勉強になった。」「やる気がわいた。」といったご意見もいただいている。資料にも記載しているとおり、今年度3月ぐらいを目途に第2弾を発行し、そういった取組を引き続き継続してやっていきたいと思っている。

**黒川議員：** 数字的な把握は難しいかもしれないが、例えば関東学院のOBで福浦・幸浦の企業に就職して頑張っているといったような声が冊子に入ってくると、より身近な就職先として考えられるのではないかなと思うので、よろしく願いしたい。

7ページ、サイクルツーリズムについて、これもコミュニティサイクルの事業が実証実験で始まったものだが、定着させてもらいたいと思っている。1つは、サイクルステーションをもっと増やしてほしい。例えばシーサイドライン沿線は、各駅にサイクルステーションがあってもよいと思っている。自転車置き場もあるが、放置自転車がいっぱいあって、そういうところを少し整理してその部分を一部サイクルステーションにしてもらえれば、シーサイドラインの各駅から例えば福浦・幸浦の企業の会社に、自転車を使って行って、また自転車で駅まで帰ってくるということになると、シーサイドラインの利用促進にもつながると思う。杉田・新杉田や金沢八景・金沢文庫からタクシーでいろいろな会社に行くような人たちが、シーサイドラインに乗ってそこから自転車を利用することが定着すると良いと思う。シェアサイクル事業は、観光利用だけではなく、いわゆる生活利用、仕事利用、あるいは学生・学校の利用といった活用の仕方もできると思うが、そのあたりの考え方、シェアサイクルの事業者との連携を区役所として図っているのか、意見交換等をしているのか教えていただきたい。

**大屋区政推進課長：** シェアサイクルについては、区としてもポート設置に向け、局・事業者含めて関係各所と調整をしているところである。その結果、現在、金沢区内には25か所ポートがあり、これは横浜市の南部

では非常にポート数が多い状況になっている。ご指摘のあったシーサイドライン沿いについては、道路局でもポート設置優先検討路線として位置付けているため、局とも連携し、シーサイドライン沿いの設置にも進んでいきたい。

**黒川議員：** サイクルツーリズムやシティガイド協会・観光協会さんの「まち歩き」の中で、いろいろな金沢区の名所に行ったときに、案内板・パネルをより充実させてほしいと思っている。そういったところに、例えばQRコードがあって、スマートフォンでかざすと、より深い情報が得られるといったことをやろうと、何回もこの場でも、何年にもわたってそういうお話を聞いていたり、私からも発信したりしていたが、なかなか進んでこないという感じもする。検討状況や実施状況について教えていただきたい。

**米山地域振興課長：** 様々な時代の寺社等が多くある金沢区の特徴・魅力を生かしながら皆様に来街して、巡っていただきたい、訪れていただきたいと思っただけの情報発信は非常に大事なことだと思っている。今回、事業化にあたっては、お客様に情報を発信するツールとしてのQRコードは非常に有効だと思っているので、今後この事業を進めるにあたって、検討をしっかりとしていきたいと思う。

**黒川議員：** QRコードをスマホでかざすと、例えば、今はもうなくなってしまっている三条実美別荘があったところで、こういう別荘だったとか、その人の略歴がわかったりすると、より自転車でまわったり、歩いてまわったりしていても、楽しくなると思う。また、金沢区は様々な時代の史跡があるので、時代ごと色分けしてガイドのルートをつくるようなことも楽しいと思う。発展性がある部分だと思うので、観光協会やシティガイド協会ともうまく連携しながらやっていただきたい。

コミュニティサロンについて、先程9つのサロンと説明があったが、最近いろいろなサロンがどんどん増えてきていることを実感している。区役所として、どの程度把握しているのか。また改めてそういうサロンとの連絡・調整や、情報交換のパンフレットのようなものをつくる計画があるのか教えていただきたい。

**渡邊地域力推進担当課長**：現在、金沢区で9つのサロンとサロン連絡会として事業を行っているのは、この9つのサロンがまち普請事業、あるいは区の茶の間補助金事業といった横浜市の補助金を受けており、その後も一緒になってサロンの運営をやっていこうということで、サロンを区民の方に知ってもらい、あるいはサロン同士の運営、経営的には厳しいところがあるため、情報共有してもらえたらということでやっている。また、連絡会に入っているのは9つとは別に、区の社会福祉協議会でふれあい助成金をもらっているサロンはこれ以上の数があり、様々な施設を利用して、サロンを行っているというところもある。今のところ、把握する手だてはないが、今後これらサロンとも何らかの形でサロン連絡会と連携が取れていければ良いとも思っている。サロンは、地域の方々の居場所や子どもの学習支援、あるいはこども食堂等、様々な地域の課題解決に大変貢献していただいているので、今後ともサロンの取組は推進していきたい。

**黒川議員**：9つ以外のサロンについても、自主的に一生懸命やってらっしゃるところはたくさんあると思う。また、特に引っ越してきた人たちや若い世代の人たちにはなかなか情報がいってない部分も多いと思うので、そういう人たちにも情報が行き渡るためには、情報提供を区役所の側からしてあげる必要があると思っているので、是非取り組んでいただきたい。

最後に、金沢防災えんづくり事業について、ペットの同行避難は是非地域の獣医師会ともうまく連携してもらいたい。獣医師会に来ていただいて、ペットの同行避難における注意点やいろいろな知見を地域の皆さんに教えていただくといったことをやっていただけたらありがたいと思っている。獣医師会の考え方も、避難所に同行避難という形で1か所に避難をさせることが、非常にペットに対してのストレスになるという考え方の中で、同行避難よりも自分たちが預かると言ってくさっている獣医師会さんも増えてきていると聞いている。このあたりのトレンド、流れが昔と少し変わってきている感じがするが、何か把握していることがあれば教えていただきたいというのと、同行避難はこれからどういった考え方でやっていくのかコメントをいただきたい。

**河野生活衛生課長**：大規模災害時の同行避難は、ペットが普段と異なる

ところで、飼い主と離れて、飼育されることになる。ペットが環境変化に対応できるようケージに慣れることや、飼い主の指示に従うというような普段からのしつけ、健康管理が非常に大事になってくると考える。現在、生活衛生課では、年に4回獣医師会と定期的な連絡会を開催しており、様々な動物関係の事業について情報共有を行っている。こういった会議の場でも、いろいろアドバイスをいただいております、それらを生かして今後ペット対策を行っていきたいと考えている。また、コロナ禍前は、地域防災拠点に、私共と獣医師会の先生が一緒に行って、その場で飼い主さんにアドバイス等を行っていたので、今後も引き続き獣医師会の協力も得ながら進めていきたい。また、風水害の場合、現在は獣医師会の加入の先生のところ4か所で、一時預かりを受けている状況もあるので、そういったところも今後情報共有しながら進めていきたいと考えている。

**高橋議員：**「待橋」について、本当に地元は待っているのですが、はやく工事を進めていただくよう要望する。

次に、まちの不燃化事業について、寺前の方からのご相談を受け、土地の所有者を調べたところ、現況と公図がぐちゃぐちゃであった。実は市内全体で、不燃化地域を全部調べて地籍調査率と照らし合わせたところ、不燃化対象地域と地籍調査率が一致しているところの一つもなかった。それだけ、不燃化地域は公図が整っていない。都市整備局にいつも訴えているが、まず不燃化地域から地籍調査率をあげたための事業をもう少しやるべきではないかということで、専門家派遣が始まっていると思うが、残念ながら地籍調査を始めるところまで進んでいない。金沢区は特に何か所か不燃化地域があるので、もっと区から課題をあげて、地籍が整うよう支援をしていただきたいが、いかがか。

**大屋区政推進課長：**まちの防災づくりについて、都市整備局が金沢区の寺前のあたりを延焼の可能性のある地域ということでランク付けを行っており、家と家の間を間引くといったことを考えていくということで、計画的に進めようとしている。区としても、地域の要望も踏まえ、関係局と連携して取り組んでいきたいと考えている。

**高橋議員：**地籍調査は環境創造局の話であり、なかなか難しいと思う

	<p>が、例えば寺前のような地域が地震災害で延焼して無くなったときに復活させるのは非常に難しいのではないかと考えている。実際に一番困るのは職員の方々だと思うので、災害後のことも想定し、地籍調査率をあげる事が本当に重要だと思っている。</p> <p>最後に、都市計画道路について、現在六浦地区で進んでおり、事業者説明等を聞く中で、六浦の方々は協力的である。そのような中で、朝比奈インター直進化についての要望が多くある。是非区からも、道路局等にあげていただき、朝比奈インターの直進化が進むよう取り組んでもらいたい。今反対している人たちに寄り添いながら、というのわかるが、実際に不便をしている人たちがいるという事実もある。先日も高舟台をまたぐ抜け道のところで、自転車と車の交通事故が起きたと報告がきていたが、迂回するためにしかたなく通ったことによる事故だと思う。朝比奈インターが直進化すれば、そういった起きなくてもいい事故が無くなるのではないかと考えているので、検証しながら前に進めていただくことを要望する。</p>
備 考	